



第三十二話

健康相談を受けてみませんか

美男さんのところに、友達の政男さんが年始まわりにやってきました。

政男「美男さん、あけましておめでとう。今年もよろしく」

美男「あっ、政さんじゃないか。体の調子はどうだい？」

政男「うん。お陰様で調子はいいよ。でも、わしも年だから油断できんけどな」

美男「何を言ってるんだ、わしと同じ年のくせに。だけど、日頃から自分の体に関心をもつて用心しておくのにこしたことはないからな」

政男「その通りや。わしは今のところどこも悪いところ

はないけど、用心のためときどき、保健センターの健康相談に通ってるんや」

美男「保健センターの健康相談？一体どんなことをするんだ？」

政男「血圧を計ってもらったり、尿の検査をしてもらったり、気になることを相談したりするんや」

美男「へえー、そんなことをやっているのか。今度、わしも一緒に連れていってくれ」

政男「よし、じゃ今度の水曜日な」

保健センターでは、毎週水曜日の9時30分から11時まで健康相談を実施しています。

内容としては血圧測定、尿検査、体脂肪測定、みそ汁の塩分測定、血糖値測定など、このほか皆さんの気になることにも、個別で相談に応じています。

相談は保健婦が受けますが、希望される場合は栄養士や歯科衛生士が相談にのることもできます。(その場合は念のため、事前に電話にて空き具合を確認ください。)

測定はどれも数分で行うことが出来ますので、保健センターの健康相談を利用してみませんか。

だん

私の子育ての三種の神器

結婚することが決まった日、母親から受け取ったものが2つありました。それは、母子手帳とアルバム。自分が親に大切に育てられた証であるような気がして、嫁入り道具の中に大切にに入れてもってきました。

特に、アルバムの中の子どもたちの笑顔は、自分が気弱になつたときの心の支えになったこともありました。

三人の子どもの親となり、子どもを育てていく過程の中で、親として不安に感じたり、悩んだり、うれしかったりしたことがたくさんありました。自分なりに精一杯やってきたことが、子どもにも通じず、思わず叱ってしまった子どもと一緒に泣いたこともありました。

こんな未熟な親でしたが、子どもに渡していけるように考えてきたのが、親として精一杯の後姿と母子手帳と保育記録とアルバムです。

特に保育記録の中には、誕生当時の記録や保育園時代の記録がまつています。お気に入り

の品物のことや病気になつた日の様子、大好きだった遊びのこと、悔しくて涙を流しながらがんばったこと、自転車に乗れるようになるまでがんばったことなどの様子とともに、それぞれの子どもへの親の思いが書き込まれています。第一子に比べると、第二子、第三子は、記録が少ないですが、それぞれが結婚することが決まったときに手渡してやりたいと思っています。

特に、三人の成長の中で、第二子は個性が強く、中学校時代は自分の思いが通じないと自分を抑えきれず、壁に穴をあけるようなこともありました。

親の方も思春期の苛立ちを十分感じ取れず、イライラを募らせるような言葉を言ってしまうこともありました。

さらに荒れるようなことがあれば、子どもに渡してやろうと考えていたのは、「私の子育ての三種の神器」母子手帳・保育記録・アルバムです。

この中に、成長の足跡がいっぱいつまっております。多くの人に支えられながら自分が生きていくんだというのを感じ取ってくれると思つたからです。

辛い思春期の荒れも自力で乗り越えてくれたので、これを渡すのは、彼が家庭を築く時となりそうです。

環境に関する意見が多いです。まず最初に手紙から。

今月(11月1日号)の広報「ひとこと言わせて」を読み、私と全く同じ迷惑を被っている方が多くいることを知り、やはりこれは行政に介入していただく必要があると思ひ、お手紙いたします。

私の隣家の方は、ペットボトル、ビニール製品、野菜その他のゴミを自宅の空き地で焼却されます。空き地と言っても宅地なので、住宅はつまっており、その黒煙、臭気には困り果てております。

何度も止めていただくようお願いに参りましたが、全く受け付けていただけず「自分の家を出たゴミは、自分で処理する。」と言われ、しまいには嫌がらせを始め、始末でますますゴミ焼却に精を出しておられます。

私たちには健康に生きる権利があるはずですが、個人的な対応には限度があり、行政で条例を作っていたらしくしか、対処の仕方がありません。

せっかく、ささゆりクリンパークができてこれでは絵に描いた餅になってしまいます。

多治見市などは市街地でのゴミ焼却は禁止されています。是非、次回のこの紙面上でご回答いただければ幸いです。

(下古井・Mさん)
*野焼きに関する意見などが非常に多いです。このことに関する記事を、1月15日号で改めて掲載します。

次はリサイクルステーションに関する意見を。

11月のリサイクルステーションに、私の母が新聞や牛乳パックなどを持っていたのですが、「新聞はしばらくなくてもいいよ」や「新聞は段ボール箱に入れてくるといいよ」など、わからないことについて、適切にアドバイスしていただいて、感激しております。

小中学校の資源回収があるときは別ですが、たくさんの人に知っていただき、利用してもらいたいですね。(本郷町・Wさん)

電話で、10月から運行を開始したコミュニティバスについても意見をいただきました。

10月からコミュニティバスが運転されるようになると、伊深に住んでいる私も福祉会館や駅などに行くときなどに大変便利になり、利用させていただいているわけですが、私が見ている「伊深連絡所」のバス停は実際の連絡所よりは50mぐらい南にあります。実際の連絡所の前になると、わかりやすいと思うのですが、バスの運転経路上、仕方がないのでしょつか。

(伊深町・Kさん)

11月15日号で紹介した広報紙のスーパへの配置についての意見を。

11月1日号から、広報みのかもがスーパに設置されているのですが、いいことだと思いません。ただ、スーパの中には目立たないところに設置してあるところもあるもので、最初は気がつかなかったです。もう少し

し、わかりやすくしてみよう。

広報紙をスーパに設置してもらおうことについては、各スーパの御協力もあり、どの店においても、玄関付近に配置していただくなど、たいへんありがたいと思っております。また、前号が少なくならない場合は、すぐに補充するなどして対応してまいります。

(広報係)

あなたの身近な話題やうれしかったこと、腹がたったこと、「広報みのかも」を読んだ感想や、特集として取り上げてほしい内容など、気軽に電話やはがき、ファックスまたは電子メールでお寄せください。(広報誌上は匿名で掲載しますが、住所・氏名・電話番号は必ず、お知らせください)

あなたの声をお待ちしています。

〒505-8606 美濃加茂市企画部総合政策課広報係
でんわ (0574) 25-2111 (内線239・241)
FAX (0574) 28-1290
Eメール kouhou@city.minokamo.gifu.jp